

災害時は避難最優先

市民おもしろ塾 中根さん被災体験語る

能代市の市民おもしろ塾 前高田市出身の中根紗希さんの例会は22日、同市中央公民館で開かれた。岩手県陸

本大震災の被災経験を基に講演し、「何よりも大切なのは自分の命」と、地震をはじめとする災害時には避難を最優先するべきと呼び掛けた。

おもしろ塾は、文化や歴史、自然、医療など硬軟織り交ぜた幅広い題材で講演会を続けている。167回

目の例会となったこの日は、中根さんが「故郷・陸前高田と移住先・能代へ被災が私に残したもの」と題して登壇し、約30人が聴講した。

陸前高田市は岩手県沿岸の東南端に位置。平成23年3月11日に発生した大震災では大津波が街を襲った。当時20歳だった中根さんは、職場で被災した。自身は津波を免れたが、自宅は流

東日本大震災の被災経験を踏まえて講演した中根さん（能代市中央公民館で）

され、一緒に暮らしていた祖父と叔母が亡くなった。約5カ月間にわたった避難所生活では、プライバシーの守られない環境で過ごさざるを得なかった。その後に移った仮設住宅は2Kの間取り。祖母と父、母の4人で暮らすには窮屈で「正直、とてもつらく、趣味の卓球に打ち込むなどして気を紛らわせていた」と振り返った。

結婚を機に令和4年に能代市に移住した。故郷と同じ海に面した街で暮らす上で、心に決めているのは、地震が起きたらすぐに津波を思い浮かべ、高い所を目指して避難すること。場面や状況に応じた避難場所などを、家族と口頭から確認し合うことが大切と強調した。

自分の命を守るため、ばらばらでも、すぐに避難することの大切さを表す言葉「てんでんこ」を紹介。「冷たい印象があつて、被災後は大嫌いな言葉だったけど、互いを信じてとにかく逃げることは大切。それが後につながるの間違いはない」と語った。

能代市では、子育てをし

ながら働いている。地域とのつながりを大切にするため、行事に子どもを積極的に参加させたり、自身もさまざまな会合などに顔を出している。ここ数年は、大

雨による水害などが増えていることを踏まえ、「日頃から、近所でほどほどに顔の見える関係を築いておくことが何よりも大事だと思っている」と述べた。